

インバスコ 世界厳選株式オープン ＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）

愛称「世界のベスト」——替えのきかない世界の優良企業50社。
構成・押しポイント・分配金の本当の姿・リスク・将来性

作成 2026年9月26日 | 基準価額は9月25日公表分、組入れは8月末の月報と6月の運用報告書、株価・予想は9月25～26日時点

15.7倍

組入れ全体の予想PER
(配当利回り1.8%)

+4.8%

AI・半導体株が急落した
2026年6～7月の実際の成績

約10%

AI中心の成長株ファンド
(ブルーチップ)との銘柄の重なり

21.5%

毎月150円の分配が
基準価額に占める割合(年)

カナダ・米国・メキシコを1社でつなぐ貨物鉄道、世界最大のカード決済網、大型旅客機のエンジン、証券取引所——。このファンドは、**他社がまねできない事業を持つ世界の優良企業約50社**に、割安なときに投資する。**AIに偏らない分散と成長の割に割安な株価水準**が最大の押しであり、AI関連株が急落した局面でもプラスを保った。一方で、**毎月の分配は運用成果を上回るペース**で払い出されている。本書は、押しと注意点を同じ重さで示す。

結論——推しは「質・割安・分散」、注意は「分配の速さ」

世界の優良企業に割安なときに投資する、AIに偏らない「王道」の株式ファンドである。運用の中身は推せる。ただし毎月決算型は、分配(年1,800円)が運用成果を上回るペースで基準価額を削っており、受け取り目的でなければ同じ運用の年1回決算型(NISA対象)が合理的である。

★ この投資信託の押しポイント

1. 替えのきかない優良企業50社:3か国を結ぶ唯一の鉄道網、世界最大の決済網、航空エンジン、取引所など、参入障壁の高い企業を中心(上位10銘柄で36.6%)。
2. 成長の割に割安:組入れ全体の予想PERは15.7倍、来年度の予想増益率は約16%、配当利回りは1.8%。
3. AIに偏らない分散:IT比率は11%。値動き(リスク)も特定の分野に偏らず、AI・半導体株が急落した2026年6~7月も+4.8%だった。
4. AI中心の資産との相性:AI中心の成長株ファンド(ブルーチップ)との銘柄の重なりは約10%。2025年の関税ショックの下げは約半分(今の組入れでの再現:-14%対-29%)。
5. 規律と実績:1999年設定。2020年から同じ運用責任者が「上がった銘柄は売り、出遅れた優良株を買う」規律を守る。シリーズ純資産4.96兆円、116か月連続の資金純流入。

1 何に投資しているか

- 先進国の約50銘柄。金融(銀行・保険・取引所・決済・投資会社)26%、北米の鉄道・物流・建設など資本財28%、生活必需品・ヘルスケア・素材など32%、テクノロジー13%。日本株はゼロ、英国が23%と、世界株式の構成とは大きく異なる。
- 時価総額300億ドル以上の企業が72%。巨大ハイテク株に偏らず、各分野の世界的な中核企業に分散している。

2 分配金の本当の姿

- 毎月150円(年1,800円)は、2020年1月から変わっていない。これは今の基準価額(8,363円)の21.5%にあたり、基準価額を保つには年24%近い運用成果が必要になる。
- 基準価額は5年で9,605円から8,923円に下がったが、受け取った分配金を含めた通算では+85%(税・手数料前)。損益は「基準価額+受け取った分配金」で見る必要がある。
- 分配の原資(分配対象額)は大きいですが、大半は資金流入に伴う会計上の項目(収益調整金)で、基準価額の下落を防ぐものではない。今の分配水準がずっと続く前提は置きにくい。

3 リスクと将来性

- ・ 値動きは年率約14～16%と株式としては中程度。ただしリーマン・ショックでは-65.6%(2007年7月→2009年3月)下げた。株安と円高が重なると大きく下がる。ドル円とユーロ円は過去30年でほぼ最も円安の水準にある。
- ・ 予想どおり年16%の増益でPERが変わらなければ、株式部分の成果は年+16%程度(現地通貨、費用控除後)。それでも分配(年24%相当)には届かず、**基準価額は下がり続ける計算**になる。
- ・ 総合すると、**運用戦略は推せるが、毎月決算型は「受け取り」のための器**。資産を増やすなら、同じ運用の年1回決算型(NISA成長投資枠の対象)で持つのが合理的である。

表0 総合判定(詳細は第9章)

評価項目	判定	根拠(章)
企業の質	推せる	参入障壁の高い世界的な中核企業が中心。上位10社はほぼ全社が増収(第2・4章)
株価の水準	推せる	予想PER15.7倍、予想増益率約16%、配当利回り1.8%(第4章)
分散・AIへの備え	推せる	IT11%、リスクが分野に偏らない。AI急落の局面で+4.8%(第2・5・7章)
運用の一貫性	推せる	2020年から同じ運用責任者、10期同じ方針、利益確定と出遅れ株の買いの規律(第3章)
分配の持続性	注意	払い出しは基準価額の21.5%。年24%近い成果がないと基準価額は下がる(第6章)
為替	注意	外貨ほぼ100%。ドル円・ユーロ円は30年で円安側の上位2～4%の水準(第7章)
大きな下落	注意	リーマン・ショックで-65.6%。景気後退と円高の同時発生に弱い(第7章)
費用・税	重め	信託報酬 年1.903%。毎月型はNISA対象外で、分配のたびに課税(第1・6章)

事実 公式資料・一次資料の値
 自己計算 公式データからの計算
推定 仮定を置いた推計・解釈
 予想 アナリスト予想(Yahoo Finance 掲載、9/26取得)

目次

結論	推しは「質・割安・分散」、注意は「分配の速さ」 推しポイント、分配の本当の姿、リスクと将来性を最初に示す
第1章	ファンドの輪郭——しくみ・シリーズ・規模・費用 5つのコース、資金流入、費用、これまでの値動き
第2章	構成の深掘り①——何に投資しているか テーマ別の配分、地域と通貨、企業規模、上位銘柄、配当
第3章	構成の深掘り②——運用者の判断と動き 一貫した方針、業種配分の変化、売買の型
第4章	主要企業の実力と株価の水準 上位10社の強みと業績、予想PERと予想増益率
第5章	推しポイント 7つの推しと、その裏返しの注意点
第6章	分配金の本当の姿 通算損益、原資の中身、分配は続くか
第7章	リスクの正体 リスクの出どころ、急落の再現、為替、優先順位
第8章	将来性——運用成果と分配のゆくえ 投資環境、予想、3年の感応度、シナリオ、監視指標
第9章	総合評価 各章のまとめから最終判断、コースの選び方
付録	A 方法とデータ／B 出典／C 用語集 計算方法、推定の前提、限界

ファンドの輪郭——しくみ・シリーズ・規模・費用

1999年に設定された、国内最大級のアクティブ型の世界株式ファンドである。同じ運用を分配の出し方の違う5つのコースで提供しており、本書が扱う「為替ヘッジなし・毎月決算型」はその中心である。

1.1 しくみ



運用会社はインバスコ・アセット・マネジメント。マザーファンドの運用は英国の同グループ会社に委託している。運用責任者のスティーブン・アネス氏は2002年にインバスコに入社し、2020年から本ファンドの戦略を率いる(グローバル株式チームのヘッド)

事実。先進国の約2万社から「成長」「配当」「割安」の3つの視点で約50社を選ぶボトムアップ型の運用で、運用会社は「株式投資の王道」と呼んでいる。

1.2 5つのコース

表1 同じマザーファンドに投資するコース(為替ヘッジなし)

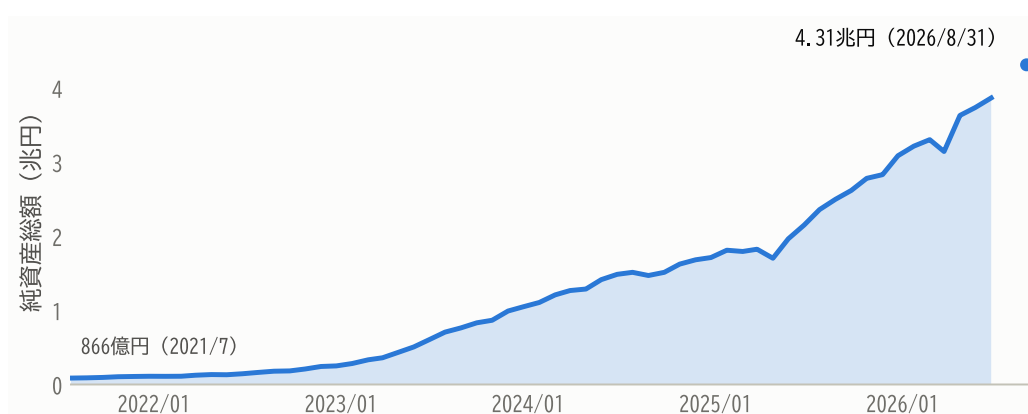
コース	設定日	純資産(9/25)	分配	NISA
毎月決算型(本書)	1999/1/7	4兆1,864億円	毎月150円	対象外
年1回決算型	2018/10/5	6,041億円	設定来なし	成長投資枠の対象
奇数月決算型	2023/9/22	114億円	9/24に60円	成長投資枠の対象

このほか為替ヘッジありの各コースと、予想分配金提示型(2025年12月設定)がある。出典:投資信託協会、インバスコ(各コースの分配金のお知らせ、特設ページ)。**事実**

株式の中身はどのコースも同じで、違うのは分配の出し方である。本書の第2~5章・第7~8章の分析(組入れ、押しポイント、リスク、将来性)は、年1回決算型にもそのまま当てはまる。第6章の分配金の分析は、毎月決算型に固有の論点である。

1.3 規模と資金の流れ——「選ばれ続けている」ファンド

図1 純資産総額の推移(毎月決算型・為替ヘッジなし)



2021年7月~2026年6月は運用報告書の月末値、8月末は月報。**事実**

純資産は5年で約870億円から4.31兆円(8月末)へ、約50倍になった。増加の大半は資金流入で、2021年7月～2026年6月の推定純流入は約2.6兆円、直近1年だけで約1.1兆円である **自己計算**。シリーズ全体の純資産は4兆9,602億円(8月末)で、QUICK資産運用研究所の調べではグローバル株式のアクティブ型で第1位(6月末)。シリーズは2017年1月から116か月連続で資金が純流入し、2026年6・7・8月の月間流入額はいずれも全ファンド中3位、銀行の販売チャネルでは17か月連続の1位である **事実**。

2026年3月には、急増する資金に備えて信託金の上限を5兆円から10兆円に引き上げた。規模や人気は将来の成果を約束しないが、長期にわたって多くの投資家に選ばれ続けてきたことは事実である。

1.4 費用と税

表2 費用と税(毎月決算型)

項目	内容
購入時手数料	3.30%(税込)以内で販売会社が決定。ネット証券などでは無料の例もある
信託報酬(保有中)	年1.903%(税込)。総経費率は年1.91%(2025年12月～2026年6月)
信託財産留保額	換金時に0.30%
税金	普通分配金と換金益に20.315%。元本払戻金(特別分配金)は非課税だが、その分個別元本が下がる
NISA	毎月決算型は対象外。年1回決算型・奇数月決算型は成長投資枠の対象

1.5 これまでの値動き(ファンド自身の数字)

+555%

設定来(1999/1～2026/8、分配金を再投資した場合)

+142%

直近5年(2021/9～2026/9、分配金を再投資した場合)

約15%

値動きの大きさ(年率)
(直近2年、日次)

－65.6%

2006年以降の最大下落
(2007/7→2009/3)

直近5年(2021年7月～2026年6月の60か月)の年率は+20.1%、最大下落率は月末ベースで－14.0%、日次ベースでは－17.6%(2025/1/24→4/9)だった **自己計算**。ただしこの期間はドル円が約110円から約160円へ動いた円安局面で、成果の大きな部分は円安による。2008年前後の金融危機では、株安と円高が重なって－65.6%まで下げた。9月は8/31→9/25で－6.0%(分配込み)と、円高の影響を受けた。

この章のまとめ

- ・ 1999年設定。同じ運用の5つのコースのうち、毎月決算型が中心(純資産4.19兆円)。シリーズ合計は4.96兆円で、グローバル株アクティブ型の第1位。
- ・ 116か月連続の資金純流入。2026年6～8月の月間流入は全ファンド中3位。
- ・ 直近5年は年率+20%(分配再投資)だが、円安の寄与が大きい。金融危機では－65.6%の下落を経験している。

判断への意味:運用の評価(第2～5章)はコースを問わず共通。分配の評価(第6章)は毎月決算型だけの論点として分けて考える。

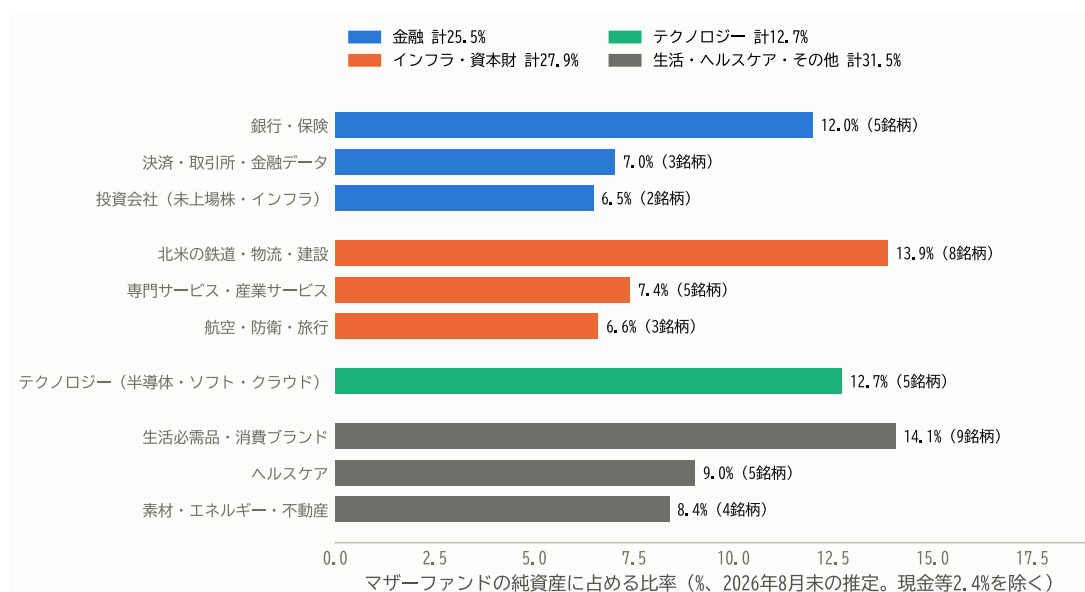
構成の深掘り①——何に投資しているか

業種で言えば金融と資本財が中心だが、中身を見ると「世の中のお金とモノの流れを押さえる企業」への投資である。決済網、取引所、貨物鉄道、航空エンジン、飲料のボトラー、アジアの生命保険——どれも簡単には代わりが見つからない事業だ。

2.1 テーマで見る配分

2026年6月23日の運用報告書の全49銘柄と、8月末の月報の上位10銘柄から8月末の比率を推定し、事業のテーマで分類した **推定**。推定値の通貨構成は月報の公表値とほぼ一致する(米ドル51.1%/公表52.3%、英ポンド21.9%/20.2%)。

図2 テーマ別の配分(2026年8月末の推定)

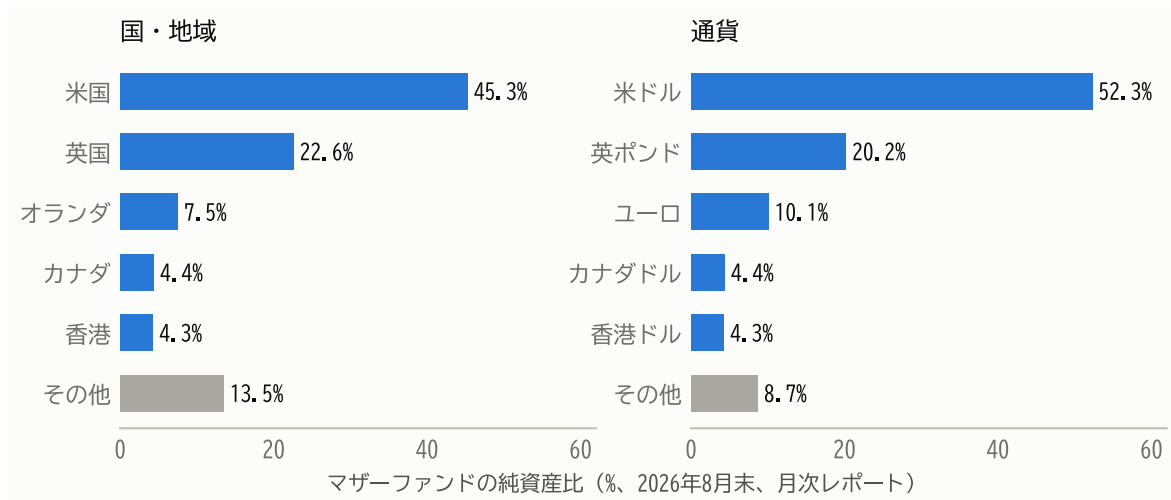


分類は本書による(付録A)。 **推定**

- **金融 25.5%**: 銀行・保険(AIA、スタンダードチャータード、イースト・ウエスト、アビバ、AIB)12.0%、決済・取引所・金融データ(ビザ、LSEG、ICE)7.0%、投資会社(3i、KKR)6.5%。
- **インフラ・資本財 27.9%**: 北米の鉄道・物流・建設(カナディアン・パシフィック、ユニオン・パシフィック、サンベルト、QXO、アムライズ、XPO、ウェイスト・コネクションズなど)13.9%、専門・産業サービス(RELX、エリス、アゼリス、IMCDなど)7.4%、航空・防衛・旅行(ロールス・ロイス、バイキング、アメンタム)6.6%。
- **テクノロジー 12.7%**: テキサス・インスツルメンツ、マイクロソフト、NVIDIA、ブロードコム、アマゾン。
- **生活・ヘルスケア・その他 31.5%**: 生活必需品・消費ブランド(CCEP、ディアジオ、コンパス、トラクター・サプライ、LVMH、ユニバーサル・ミュージックなど)14.1%、ヘルスケア(メドライン、アルコン、ウォーターズ、エレバンス、BD)9.0%、素材・エネルギー・不動産(ノボネシス、アムコア、アーカーBP、アメリカン・タワー)8.4%。

2.2 地域と通貨——日本ゼロ、英国と欧州が厚い

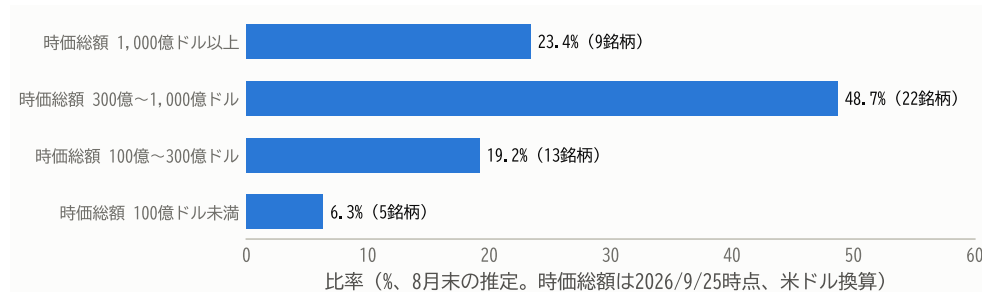
図3 国・地域と通貨の構成(2026年8月末)



米国は45.3%にとどまり、英国22.6%、オランダ7.5%と欧州が厚い。運用会社の集計では北米51.2%・欧州42.0%・日本0%である(世界株式の指数は北米約76%・欧州約16%・日本約6%)[事実](#)。国の配分は銘柄を選んだ結果で、英国企業でも売上の多くは海外にある。通貨は米ドル52.3%、英ポンド20.2%、ユーロ10.1%で、外貨がほぼ100%。為替ヘッジをしないため、円相場が基準価額を直接動かす。

2.3 企業の規模——巨大ハイテクに頼らない

図4 時価総額の規模別の配分



時価総額はYahoo Finance掲載値(9/25)を米ドルに換算。[推定](#)

時価総額300億~1,000億ドルの企業が48.7%と最も多く、1,000億ドル以上は23.4%(9社)である。数社の巨大ハイテク株に成績が左右される世界株式の指数とは、性格が大きく違う。

2.4 上位10銘柄

表3 上位10銘柄(マザーファンドの比率)

順位	銘柄	国	何をしている会社か	6月23日	7月末	8月末
1	3iグループ	英国	欧州のディスカウント店「アクション」などに投資する投資会社	4.4%	5.3%	5.0%
2	カナディアン・パシフィック・カンザス・シティ	カナダ	カナダ・米国・メキシコを1社でつなぐ貨物鉄道	4.5%	4.2%	4.4%
3	AIAグループ	香港	アジア18の国・地域の大手生命保険	4.4%	4.4%	4.3%
4	ロールス・ロイス	英国	大型旅客機のエンジンと保守サービス	4.4%	4.3%	4.0%
5	マイクロソフト	米国	業務ソフトとクラウド	3.0%	3.5%	4.0%
6	ビザ	米国	世界最大のカード決済網	—	2.9%	3.1%
7	メドライン	米国	医療用品の製造と病院への配送	3.1%	3.4%	3.1%
8	コカ・コーラ・ユーロパシフィック・パートナーズ(CCEP)	オランダ	売上で世界最大のコカ・コーラのボトラー	3.2%	3.2%	3.0%
9	テキサス・インスツルメンツ	米国	アナログ半導体の最大手	5.5%	3.7%	3.0%
10	スタンダードチャータード	英国	アジア・アフリカ・中東の国際銀行	2.8%	2.9%	2.7%
合計						36.6%

6月23日は運用報告書(全体版)の全銘柄明細から計算、7月末・8月末は月報。 **事実**

2.5 集中度と配当

組入れは50銘柄で、上位10銘柄で36.6%。1銘柄の最大は5%程度に抑えられている。組入れ全体の配当利回りは約1.8%(9/25時点の各社の配当利回りを比率で加重)で、運用会社も「指数を上回る配当利回り」を特徴に挙げている。一方、メドライン、バイキング、QXOなど**無配の銘柄も比率で約13%あり**、「配当」は個別銘柄の必須条件ではなく、全体として確保する形になっている **自己計算**。

この章のまとめ

- ・ 金融26%、インフラ・資本財28%、生活・ヘルスケアなど32%、テクノロジー13%。お金とモノの流れを押さえる、代わりの利きにくい企業が中心。
- ・ 日本はゼロ、英国と欧州が厚い。外貨がほぼ100%で、為替ヘッジはしない。
- ・ 中大型の優良企業に分散し、巨大ハイテック株への依存は小さい。配当利回りは約1.8%。

判断への意味:「世界株式の指数を丸ごと持つ」とは違う、個性のはっきりした分散投資である。AI中心の資産と組み合わせると、偏りを和らげる役割が期待できる(第5章)。

構成の深掘り②——運用者の判断と動き

運用方針は5年間10期の運用報告書でほぼ同じで、実際の売買もそれに沿っている。「上がって割高になった銘柄は売る、業績が伸びているのに出遅れた優良株を買う」という規律が、この運用の背骨である。

3.1 一貫した方針

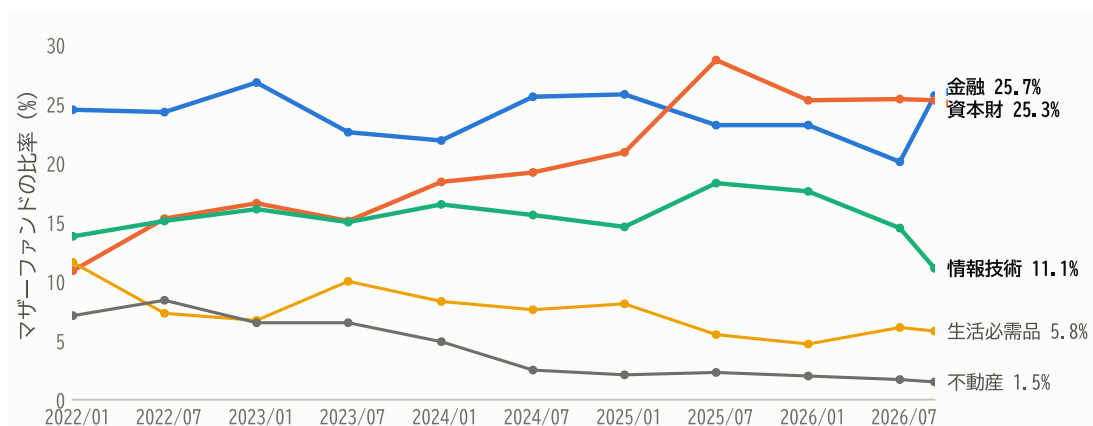
運用報告書(全体版)の「今後の運用方針」は、2021年12月から2026年6月までの10期すべてでほぼ同じ内容である。要点は、(1) フリー・キャッシュフローと株主還元で裏付けられた配当成長力を持つ企業に着目する、(2) バリュエーション(利益や資産に対する株価の水準)を重視し、**相対的に割安な銘柄への組み替え**を続ける、の2つ **事実**。8月の月報でも、市場変動が激しい局面は割安に放置された優良企業を見つける好機であり、不透明な環境では配当の重要性が高まる、と述べている。

運用責任者のAIの見方——「恩恵はAI企業の外にも広がる」

同じ運用責任者が英国で運用する同じ戦略の投資信託(Invesco Global Equity Income Trust)の年次報告(2026年9月公表)で、アネス氏は次の趣旨を述べている。市場はAI関連株を「勝者が敗者か」の二択で評価しがちだが、AIの恩恵を受ける企業はもっと広い。データ、取引所、情報サービス、給食・ケータリング、包装、医療物流などにも受益者がいる。そのうえで、少数の米国大型株・AI関連株に集中した指数とは、あえて違う組入れを取っている。LSEG・ICE(取引所・金融データ)、RELX(情報サービス)、コンパス(給食)、アムコア(包装)、メドライン(医療物流)といった組入れは、この見方の表れと読める **推定**。

3.2 業種配分の変化

図5 主な業種の比率の推移(マザーファンド)



2021年12月～2026年6月は運用報告書の全銘柄明細を本書が業種分類して集計(公表値との差は±1.5ポイント以内)、2026年8月は月報の公表値。 **推定**

- ・ **金融は常に最大級(20～27%)**: 銀行・保険に加え、取引所・決済網など「手数料で稼ぐ金融」を厚くしている。
- ・ **資本財を段階的に拡大(約11%→約25%)**: 北米の鉄道・物流・建設と航空エンジン。北米のインフラ投資や製造業の国内回帰を捉える配分である。
- ・ **金利に弱い業種を縮小**: 不動産は約7%から1.5%、生活必需品は約12%から約6%へ。2022年以降の金利上昇に沿った変化。
- ・ **2026年はITを利益確定**: ASMLとデルの全売却、テキサス・インスツルメンツの一部売却で、ITは約18%から11%へ下がった。

3.3 売買の型——成功と失敗から見える特徴

表4 主な売買と、その後の株価(現地通貨、配当を含まない)

型	銘柄(期間)	株価の変化	読み取れること
業績の転換点を捉えた買い	ロールス・ロイス(2021/12→2026/6)	+1,075%	経営再建や収益性の改善が始まった段階で買い、大きな成果を上げた
	スタンダードチャータード(2021/12→2026/6)	+381%	
	デル(2025/12→2026/8、全売却)	+265%	
割高になった銘柄の売却	ユナイテッドヘルス(2025年上期に売却→その後)	-25%	評価が高まった銘柄を手放し、その後の下落を避けた
	アクセンチュア(2024年下期に売却→その後)	-40%	
	ノボ・ノルディスク(2026年上期に売却→その後)	-18%	
早すぎた売却	NVIDIA(2023年上期に売却→その後。2025年に再購入)	+1,354%	成長が続く銘柄では、割高と判断して売った後の上昇を取り逃した
	アルファベット(2023年上期に売却→その後)	+296%	
割安に見えた銘柄の不振	アゼリス、LVMH、トラクター・サプライ(2023/12→2026/6)	-55~-30%	業績が悪化した銘柄では、割安さが「罠」になった
	QXO、プロサス(2025→2026/6)	-30%、-28%	

運用報告書(全体版)10期分(2021年6月～2026年6月)の全銘柄明細の突き合わせと、各社の株価による概算。売買の正確な日付と価格は開示されていない。**推定**

直近も同じ規律が続いている。2026年6～8月には、値上がりしたロールス・ロイスとテキサス・インスツルメンツを一部売却し、デル(組入れ後に約3.6倍)を全売却した。一方で、業績が伸びているのに株価が出遅れたビザとICE(取引所)を新たに組み入れ、AIA、エリス、ユニバーサル・ミュージック、アムライズを買い増した **事実** (月報)。半期の売買高比率は0.85で、平均保有期間は3～5年とされる。

この章のまとめ

- ・ 方針は10期(5年)同じで、運用責任者も2020年から同じ。一貫性が高い。
- ・ 「上がった銘柄は売り、出遅れた優良株を買う」規律が実際の売買で守られている(直近ではデルやロールス・ロイスを売り、ビザ・ICEを買った)。
- ・ 成功は業績の転換点を捉えた買い、失敗は成長が続く銘柄の早い売却と、業績が悪化した割安株の買い。

判断への意味:この運用は「ブームに乗る」のではなく「割高を避ける」。AI関連株が上がり続ける局面では出遅れやすいが、過熱が冷める局面では強みが出やすい。

主要企業の実力と株価の水準

上位10社は、それぞれの分野で世界的な地位を持ち、2026年はほぼ全社が増収である。組入れ全体の予想PERは15.7倍で、来年度の予想増益率(約16%)や配当利回り(1.8%)と比べて、株価は割高ではない。

4.1 上位10社の強みと現状

表5 上位10社:強み・直近業績・株価の水準

企業(8月末比率)	替えのきかない強み	直近の業績	予想PER	予想増益率
3iグループ (5.0%)	欧州最大級のディスカウント店「アクション」の持分65%。景気が弱いほど客が増えやすい業態	2026年3月期トータルリターン+22%。アクションの上期は売上+14%。6月末の1株純資産3,131ペンスに対し株価は0.84倍(1年で-34%)、配当利回り3.2%	—	—
カナディアン・パシフィック・カンザス・シティ(4.4%)	カナダ・米国・メキシコを1社でつなぐ唯一の鉄道網。新たな線路網は事実上つけない	2026年4～6月期 売上+13%、調整後EPS+13%	20.5倍	+16%
AIAグループ (4.3%)	アジア最大級の生保網と専属代理店組織	2026年上期 新契約価値+10%、1株利益+13%、中間配当+10%。8月に中国本土での課税報道で株価が一時急落	10.9倍	+12%
ロールス・ロイス (4.0%)	大型機エンジンで約3分の1のシェア。飛行時間に応じた保守収入が積み上がる	2026年上期 営業利益+46%、通期見通しを上方修正、3年で70～90億ポンドの自社株買い	29.9倍	+15%
マイクロソフト (4.0%)	企業向けソフトの基盤と世界2位のクラウド	2026年6月期 売上3,318億ドル(+18%)、Azure等+43%、受注残6,780億ドル	21.8倍	+20%
ビザ(3.1%)	世界最大のカード決済網。自らは貸出をしないため信用リスクが小さい	2026年4～6月期 売上+14%、調整後EPS+11%	24.5倍	+13%
メドライン(3.1%)	米国最大級の医療用品供給会社。顧客の95%に翌日配送	2026年4～6月期 売上+11.6%。物流拠点の火災で3.4億ドルの損失、利益見通しを引き下げ。無配	22.0倍	+2%
CCEP(3.0%)	担当地域での独占的な製造・販売権と物流網	2026年上期 売上+4.4%、1株利益+10.6%、10億ユーロの自社株買い	18.1倍	+9%
テキサス・インスツルメンツ(3.0%)	アナログ半導体の最大手。自社工場によるコスト優位	2026年4～6月期 売上+23%、EPS+52%。工場投資のピークを越えた。9月に23年連続の増配(+7%)	26.1倍	+25%
スタンダードチャータード(2.7%)	国をまたぐ企業取引と富裕層ビジネス。アジア・中東の地盤	2026年上期 税引前利益+9%、中間配当+66%。株価は1年で+56%	10.9倍	+18%

業績は各社の決算発表・年次報告。予想PER・予想増益率(来年度)はYahoo Finance掲載のアナリスト予想(9/26取得)。3iは投資先の評価益が利益に含まれるため、PERでなく純資産倍率で評価。 **事実** **予想**

4.2 成長と株価の関係

図6 主要銘柄の予想PERと来年度の予想増益率(円の大きさは組入比率)

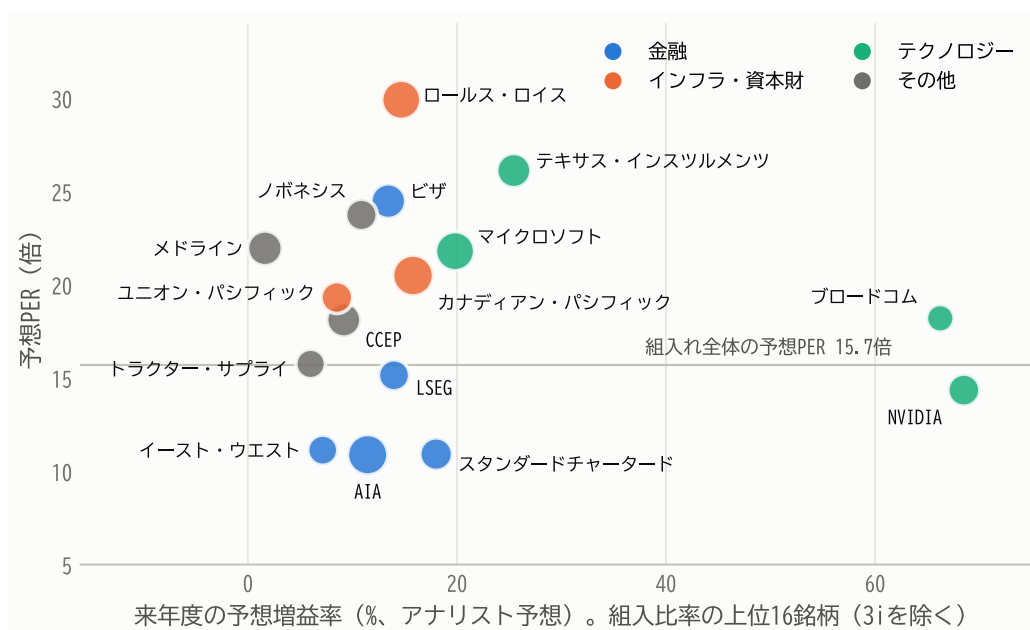


表6 テーマ群別の株価水準と成長予想(組入比率で加重)

テーマ群	比率	予想PER	来年度の予想増益率	配当利回り
組入れ全体(データのある92.6%)	—	15.7倍	+16%	1.8%
金融	25.5%	13.0倍	+13%	2.4%
インフラ・資本財	27.9%	17.6倍	+20%	1.1%
テクノロジー	12.7%	20.1倍	+34%	1.0%
生活・ヘルスケア・その他	31.5%	15.1倍	+8%	2.5%

予想PERは予想利益利回りの加重平均の逆数(3iを除く)。予想増益率は比率による加重平均(−50%~+100%で打ち切り)。運用会社の公表値では、6月末の予想PERは15.3倍、8月末は15.4倍。 **予想** **自己計算**

読み取れることは3つある。

1. 金融は「安くて配当が厚い」:AIA(10.9倍)とスタンダードチャータード(10.9倍)は、増益率12~18%に対してPERが低い。
2. 質の高い資本財は評価が高め:ロールス・ロイス(29.9倍)やカナディアン・パシフィック(20.5倍)は、参入障壁の高さが株価に織り込まれている。運用者がロールス・ロイスを一部売却しているのは、この評価の高さを意識した動きである。
3. 全体では「成長の割に割安」:予想PER15.7倍に対し、来年度の予想増益率は約16%。運用会社の資料でも、予想PERは世界株式の指数(18.9倍)より低く、ROEはほぼ同水準(25.4%)とされている。

この章のまとめ

- ・ 上位10社は各分野で世界的な地位を持ち、ほぼ全社が増収。3iとメドラインは足元の業績に課題がある。
- ・ 組入れ全体の予想PERは15.7倍、来年度の予想増益率は約16%、配当利回りは1.8%。成長の割に割安である。
- ・ 金融は安く配当が厚い。質の高い資本財は評価が高めで、運用者は一部を利益確定している。

判断への意味:株価の水準に過熱感はいさ。今後の成果は、出遅れた優良株(3i、AIA、ビザ、メドライン)の評価が戻るかどうかにか左右される。

推しポイント

第1～4章で分かったことを、このファンドを選ぶ理由として整理する。推しは7つある。それぞれに、裏返し の注意点も併記する。

推し1 替えのきかない世界の優良企業に厳選投資

- なぜ推しか** 3か国を1社で結ぶ鉄道網、世界最大の決済網、航空エンジン、取引所、ボトラー、アジアの生保網。いずれも新規参入が極めて難しい事業で、景気の波を越えて稼ぎ続けやすい。
- 数字の根拠** 上位10銘柄で36.6%、時価総額300億ドル以上が72%。組入れ全体のROE25.4%(運用会社、6月末)。上位10社はほぼ全社が2026年に増収(第2・4章)。
- 注意点** 3i(アクションへの集中)やメドライン(火災損失)など、優良企業でも業績のつまずきはある。

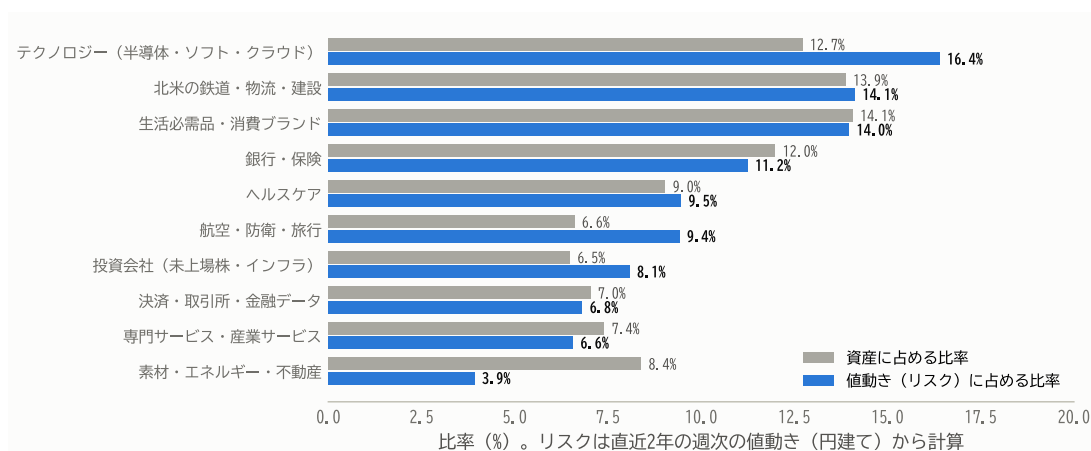
推し2 成長の割に割安な株価

- なぜ推しか** 割高な銘柄を避ける運用のため、ブームの高値づかみが起きにくい。配当も厚い。
- 数字の根拠** 予想PER15.7倍、来年度の予想増益率約16%、配当利回り1.8%。金融は13.0倍・配当2.4%(第4章)。
- 注意点** 割安に見えて業績が悪化する「割安の罠」もある(アゼリス、LVMH、QXOなど、第3章)。

推し3 AIに偏らない分散——リスクが特定の分野に偏らない

- なぜ推しか** AI関連株が相場を大きく左右する今、テーマに偏らない分散は貴重である。値動き(リスク)の出どころが、資産の配分とほぼ同じ割合で分かれている。AIには、取引所・情報サービス・医療物流など「AIの外側の受益者」を通じて間接的に参加している(第3章)。
- 数字の根拠** IT比率11.1%。リスクに占める割合はテクノロジー16%、インフラ・資本財30%、金融26%、生活・ヘルスケアなど27%(図7)。1銘柄のリスク寄与は最大でも約6%。
- 注意点** AI関連株が上がり続ける局面では、置いていかれやすい。

図7 資産の比率と、値動き(リスク)に占める比率



8月末の推定組入れと、直近2年(104週)の週次騰落率(円建て)の共分散から計算。自己計算

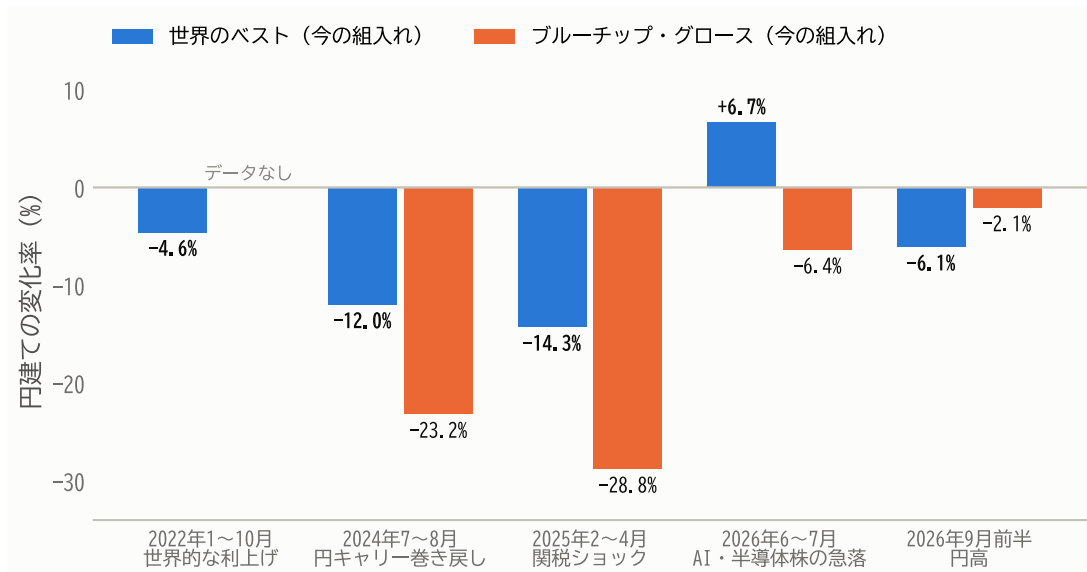
推し4 急落局面で比較的強く、AI中心の資産と相性が良い

なぜ推しか AI・成長株中心のファンドと値動きの中身が違うため、組み合わせると資産全体の振れを抑えられる。

数字の根拠 AI・半導体株が急落した2026年6～7月の実際の成績は+4.8%。今の組入れで2025年の関税ショックを再現すると-14%（AI中心のブルーチップ・グロースは-29%、図8）。両ファンドの銘柄の重なりは約10%で、半分ずつ持つと値動きは年率23%（ブルーチップのみ）から約18%に下がる（2024～2026年の月次）。

注意点 株式市場全体が下がる局面や円高の局面では、このファンドも下がる。2026年9月前半の円高では-6%（英ポンドの下落も影響）。

図8 今の組入れで見た、過去の急落局面での値動き（円建て）



各ファンドの今の推定組入れに、当時の各銘柄の騰落率と為替を当てはめた計算。ブルーチップ・グロースは2023年12月設定のため2022年はデータなし。世界のベストの実際の成績(同期間)は、-6.9%、-12.5%、-16.8%、+4.8%、-6.0%。 **推定**

推し5 ぶれない運用と、規律ある入れ替え

なぜ推しか 方針と運用者が変わらないため、どういう局面で強く、どういう局面で弱いかが予測しやすい。

数字の根拠 運用責任者は2020年から同じ（インバスコに2002年入社）。運用方針は10期の運用報告書で同じ。直近もデル・ロールス・ロイスの利益確定とビザ・ICEの新規組入れを実行（第3章）。

注意点 成長が続く銘柄を早く売る傾向がある（NVIDIA、アルファベット）。

推し6 毎月の安定した受け取り

なぜ推しか 毎月決まった額を受け取れるため、年金の補完など定期的な資金ニーズに合わせやすい。

数字の根拠 毎月150円（年1,800円）を2020年1月から継続。5年前に買った人の通算損益は、受け取った分配金を含めて+85%（第6章）。

注意点 払い出しは基準価額の21.5%で、運用成果を上回るペース。見直される可能性がある（第6章）。

押し7 27年の実績と、国内最大級の信頼

なぜ推しか	ITバブル崩壊、金融危機、コロナ、利上げなど、多くの相場を経験してきた長寿ファンドである。
数字の根拠	1999年設定、設定来+555%（分配再投資、8月末）。シリーズ純資産4.96兆円でグローバル株アクティブ型第1位、116か月連続の資金純流入（第1章）。
注意点	規模や人気は将来の成果を保証しない。金融危機では-65.6%の下落も経験した。

この章のまとめ

- ・ 推しの核は「替えのきかない優良企業」「成長の割に割安」「AIに偏らない分散」の3つ。
- ・ AI・半導体株の急落局面でもプラスを保ち、AI中心の資産と組み合わせると資産全体の振れを抑えられる。
- ・ ぶれない運用と長い実績が信頼を支える。毎月の受け取りも押しだが、分配の速さには注意が必要。

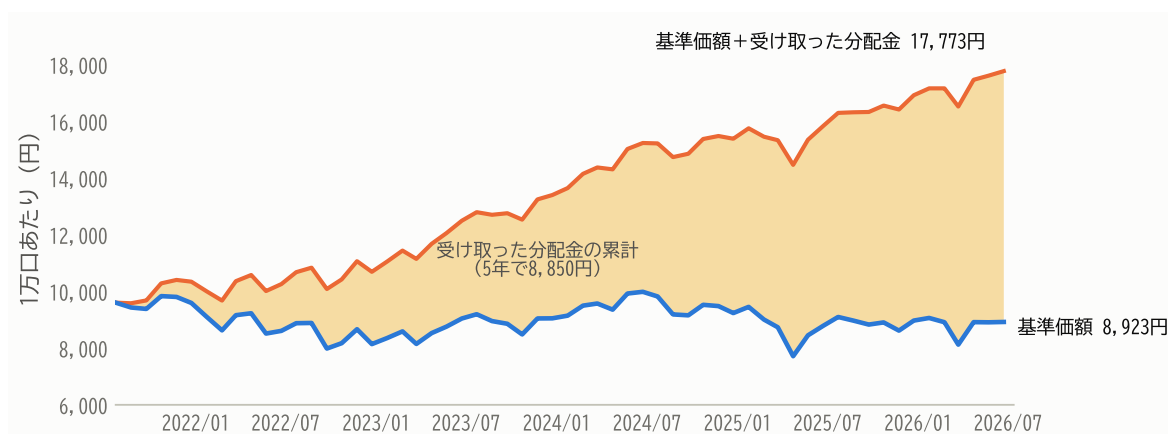
判断への意味:運用戦略そのものは、特に「AIに偏った資産の分散先」として推せる。どのコースで持つかは、受け取りの必要性で決める（第6・9章）。

分配金の本当の姿

毎月150円は魅力だが、ファンドの財産から払われている。運用の成果が年24%近くないと、基準価額は下がり続ける。損益は「基準価額＋受け取った分配金」で見る必要があり、分配の持続には限界がある。

6.1 損益は「基準価額＋受け取った分配金」で見る

図9 基準価額と、受け取った分配金を足した価値(2021年7月に1万口を買った場合)



運用報告書の各月の基準価額と分配金(税引前)から作成。自己計算

表7 購入時期別の通算損益(1万口、2026年6月23日時点、税・手数料前)

購入時期	購入時の基準価額	今の基準価額	受け取った分配金	通算損益	参考:再投資した場合
5年前(2021年7月)	9,605円	8,923円	8,850円	+85.0%	+147.2%
3年前(2023年7月)	9,196円	8,923円	5,250円	+54.1%	+72.4%
1年前(2025年7月)	9,099円	8,923円	1,650円	+16.2%	+17.9%

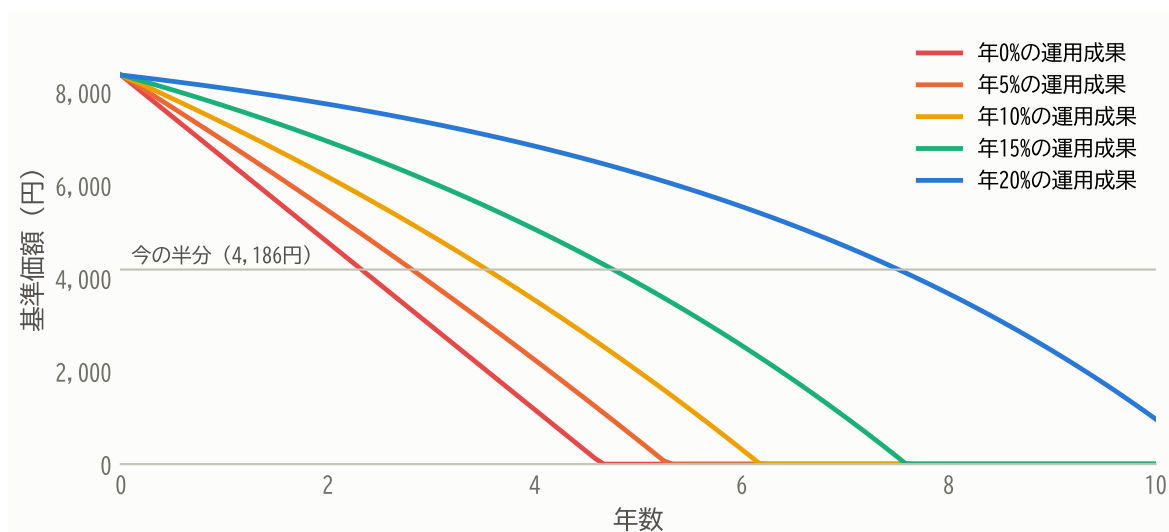
基準価額は下がっていても、下がった分は分配金として手元に渡っている。どの時期に買った人も、通算ではプラスである。一方、受け取った分配金はその後運用されないため、再投資した場合より成果は小さくなる(5年で+85%と+147%)。

6.2 分配の原資——大きいが、基準価額を守るものではない

6月23日時点の翌期繰越分配対象額は1万口あたり8,541円と、基準価額(8,923円)に近い。しかしこれは会計上の「払ってよい上限額」で、財産とは別に貯めてあるお金ではない。分配可能額3兆7,661億円のうち3兆6,293億円(96%)は、追加設定のたびに計上される収益調整金で、運用で得た利益ではない。直近18か月では分配金の約47%が当期の収益以外から払われ、2026年も2月146円、3月150円、5月6円が当期の収益以外から払われた **事実** (運用報告書(全体版))。毎月の基準価額の変化は「その月の運用損益－150円」で決まり、原資の残高はこの式に入らない。

6.3 今の分配水準は続くか

図10 毎月150円を払い続けた場合の基準価額(8,372円から、運用成果別の試算)



費用控除後の年率リターンが一定で、毎月150円を払い続けたと仮定した単純計算。税金は考慮しない。実際には運用状況に応じて分配額が見直されうる。自己計算

- ・ 9/24の基準価額8,372円に対し、年1,800円は**21.5%**。基準価額を保つには、毎月の複利で**年23.8%**の運用成果が必要になる。
- ・ 年10%の成果なら約3年半、年15%でも約5年で基準価額は半分になる計算である。
- ・ 分配が減額されても、それまでの通算損益が損なわれるわけではない。影響を受けるのは、毎月の受取額を当てにした資金計画である。

毎月決算型ならではの注意

普通分配金には受け取るたびに20.315%が課税され、複利の効果が弱まる。NISAの対象外。下落局面でも同じ額が払い出されるため、残る元本が早く減る。受け取りが不要なら、同じ運用の年1回決算型(分配実績なし、NISA成長投資枠の対象)で持つ方が合理的である。

この章のまとめ

- ・ 損益は「基準価額＋受け取った分配金」で見る。5年前・3年前・1年前のどの時期に買っても通算ではプラス。
- ・ 分配の原資は大きいが、96%は収益調整金で、基準価額を守るものではない。
- ・ 払い出しは基準価額の21.5%で、基準価額を保つには年23.8%の成果が必要。今の水準がずっと続く前提は置きにくい。

判断への意味: 毎月決算型は「受け取り」のための器。受け取りが必要な人には推せるが、分配額の見直しを前提に資金計画を立てる。

リスクの正体

分野の偏りによるリスクは小さい。大きいのは、景気後退と円高が同時に来たときの下落と、歴史的な円安水準にある為替である。英国への比重の高さも、このファンド固有のリスクである。

7.1 今の組入れで、急落が起きたら

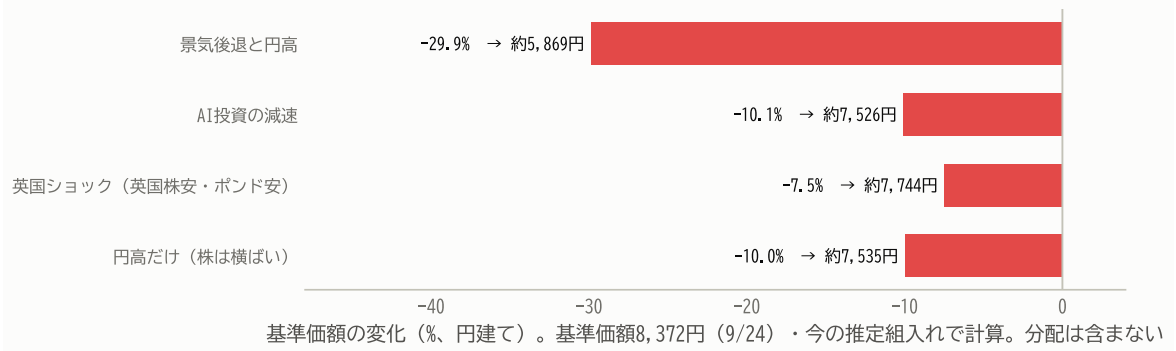
表8 過去の急落局面——今の組入れでの再現と、当時の実際の成績(円建て)

局面	今の組入れでの再現	当時の実際の成績	同期間のドル円
2022年1～10月 世界的な利上げとグロース株の急落	-4.6%	-6.9%	+26.7%(円安)
2024年7～8月 円キャリー取引の巻き戻し	-12.0%	-12.5%	-9.8%
2025年2～4月 関税ショック	-14.3%	-16.8%	-2.4%
2026年6～7月 AI・半導体株の急落	+6.7%	+4.8%	+2.6%
2026年9月前半 円高	-6.1%	-6.0%	-2.6%(ポンドは-3.7%)

再現:8月末の推定組入れに、各期間の各銘柄の騰落率(現地通貨)と為替の変化を当てはめた。実際:投資信託協会の日次基準価額(分配金再投資)。再現と実際の差は2.5ポイント以内で、推定組入れの妥当性を裏付けている。自己計算

2022年は円安が株安を大きく打ち消した。株安と円高が重なった局面(2024年夏、2008年の金融危機)で下げが深くなるのが、このファンドの基本的な弱点である。

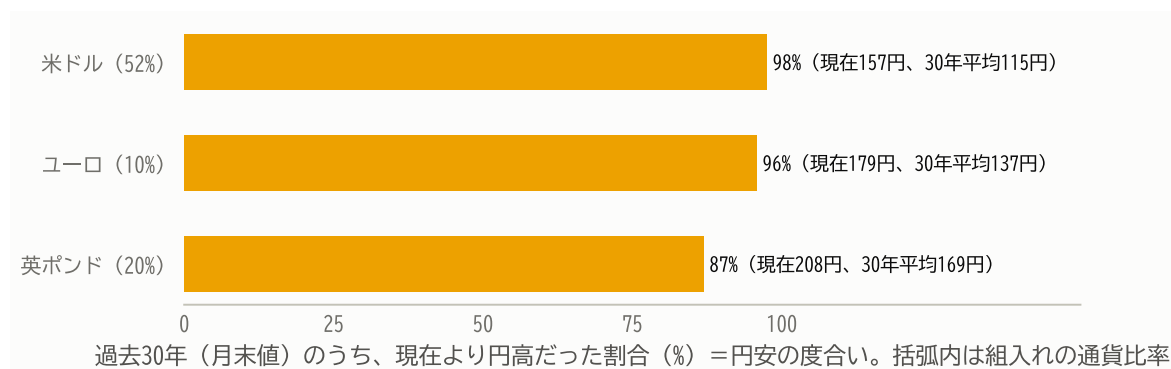
図11 想定シナリオでの基準価額(9/24の8,372円から)



前提:景気後退と円高=金融・インフラ・テクノロジー-25%、生活・ヘルスケアなど-12%、円高12%。AI投資の減速=テクノロジー-30%、インフラ-8%、金融-5%、円高3%。英国ショック=金融-8%、インフラ-6%、生活など-3%、円高3%。予測ではなく、仕組みの確認のための試算。推定

7.2 為替——円安水準の外貨を持っている

図12 主な通貨の対円水準(過去30年の中での位置)



Yahoo Financeの月末値(1996年9月～)。現在値は9/25。自己計算

米ドルとユーロは過去30年でほぼ最も円安の水準にあり、英ポンドも30年平均(169円)を大きく上回る。9月上旬には日銀の利上げ観測と為替介入への警戒から円が急騰し、日銀は9月18日に政策金利を1.25%へ引き上げた。円高は株価と関係なく基準価額を下げる。2026年9月の-6.0%も、上位銘柄の下落に英ポンドの下落(対円で約-3.5%)が重なったものである。

図13 株価(現地通貨)と為替の組み合わせによる基準価額(8,372円からの試算)

株価 -30%	4,981円 (-40%)	5,274円 (-37%)	5,567円 (-34%)	5,860円 (-30%)	6,153円 (-26%)
株価 -20%	5,693円 (-32%)	6,028円 (-28%)	6,363円 (-24%)	6,698円 (-20%)	7,032円 (-16%)
株価 -10%	6,405円 (-24%)	6,781円 (-19%)	7,158円 (-15%)	7,535円 (-10%)	7,912円 (-5%)
株価 ±0%	7,116円 (-15%)	7,535円 (-10%)	7,953円 (-5%)	8,372円 (±0%)	8,791円 (+5%)
株価 +10%	7,828円 (-6%)	8,288円 (-1%)	8,749円 (+4%)	9,209円 (+10%)	9,670円 (+16%)
株価 +20%	8,539円 (+2%)	9,042円 (+8%)	9,544円 (+14%)	10,046円 (+20%)	10,549円 (+26%)
	為替 -15% (円高)	為替 -10% (円高)	為替 -5% (円高)	為替 ±0%	為替 +5% (円安)

基準価額 = 8,372円 × (1 + 株価の変化) × (1 + 為替の変化)。分配・費用は考慮していない。自己計算

7.3 リスクの優先順位

表9 リスクの優先順位(本書の評価)

重要度	リスク	悪化の経路と、検証で分かったこと
高	分配による元本の目減り	払い出しは基準価額の21.5%。年23.8%の成果がないと基準価額は下がる(第6章)
高	景気後退と円高の同時発生	金融と資本財で約5割。金融危機では-65.6%、景気後退と円高の想定では-30%
高	円高	外貨ほぼ100%。ドル円・ユーロ円は30年で円安側の上位2~4%の水準
中	英国・欧州への比重	英国22.6%。英国の財政・金利の不安とポンド安が重なると影響が大きい
中	最大銘柄3iの集中	実質的にディスカウント店「アクション」1社の業績に依存。株価は1年で-34%
中	AI主導の相場での出遅れ	IT11%。AI関連株が上がり続ける局面では相対的に伸びにくい
中	割安株の「罠」	業績が悪化した銘柄の買いで損失を出した例がある(第3章)
低~中	費用・税	信託報酬 年1.903%。分配のたびの課税。NISA対象外

この章のまとめ

- ・ 今の組入れで過去の急落を再現すると、実際の成績とよく一致する。AI急落局面ではプラス、関税ショックでは-14~-17%。
- ・ 最大の弱点は、景気後退と円高の同時発生。金融危機では-65.6%。
- ・ ドル円・ユーロ円は歴史的な円安水準。英国の比重と3iの集中もこのファンド固有のリスク。

判断への意味: 分野の偏りのリスクは小さいが、「株安+円高」と「分配による目減り」は避けられない。持つ金額は、2~3割の下落に耐えられる範囲にとどめる。

将来性——運用成果と分配のゆくえ

金利が高止まりし、AI関連株の過熱が意識される環境は、このファンドの持ち方に追い風になりやすい。予想どおりに利益が伸びれば株式部分は年2桁の成果も見込めるが、それでも毎月の分配には届かない。

8.1 投資環境との照合(2026年9月)

表10 環境の変化と、このファンドへの影響

環境	影響	理由
金利の高止まり(FRBは9/16に3.75~4.00%へ利上げ、米10年債は5%台)	追い風	金融(26%)の利ざやが改善しやすい。高PERの成長株ほど逆風が強い
AI関連株の過熱感・調整	追い風	IT11%。2026年6~7月のAI急落局面では+4.8%。6~8月は金融・割安株が優位だった
北米のインフラ投資・製造業回帰	追い風	北米の鉄道・物流・建設に約14%
AI関連株が相場を主導し続ける	逆風	AI関連の比率が低く、相対的に伸びにくい。9月は再び半導体・成長株が優位になった
景気後退	逆風	金融と資本財で約5割
円高(日銀の利上げ、為替介入)	逆風	外貨ほぼ100%
英国の財政・金利の不安(英10年債5.35%、予算は10/28)	逆風	英国22.6%、英ポンド20.2%。英中銀は9/17に3.75%で据え置いたが、3人が利上げを主張

出典:FRB(9/16)、英中銀(9/17)、日銀(9/18)の公表、Trading Economics(英国債利回り、9/25)、MSCIの指数ファクトシート(8月末)、Yahoo Finance。 **事実**

8.2 3年後の姿——利益成長と評価倍率の組み合わせ

図14 3年間の年率リターン(現地通貨、費用控除後)——利益成長率×3年後のPER

利益成長 年0%	年-8.7%	年-3.9%	年-0.1%	年+4.5%
利益成長 年5%	年-4.1%	年+0.9%	年+4.9%	年+9.8%
利益成長 年10%	年+0.4%	年+5.7%	年+9.9%	年+15.0%
利益成長 年16%(予想)	年+6.1%	年+11.7%	年+16.1%	年+21.5%
	3年後のPER 12.0倍	3年後のPER 14.0倍	3年後のPER 15.7倍 (今と同じ)	3年後のPER 18.0倍

年率リターン=[(1+利益成長率)³×(3年後のPER÷15.7倍)×(1.018)³×(1-0.0191)³]^{1/3}-1。配当利回り1.8%、総経費率1.91%とした。為替は含まない。予測ではなく、条件を可視化するための試算。 **自己計算**

表11 3つのシナリオ(3年)

シナリオ	前提	株式部分の年率 (現地通貨)	毎月決算型の基準価額
強気	予想どおり年16%の増益、PERは15.7倍を維持、 為替は横ばい	+16%	分配(年23.8%相当)に届かず、ゆるやかに低下
中間	増益は年10%、PERは14倍へ、ドル円は145円程度へ	+6%	円高も加わり、3年で3~4割低下する計算
弱気	景気後退で増益ゼロ、PERは12倍へ、円高	-9%	大きく低下し、分配の減額が現実的に

どのシナリオでも、株式部分の成果は毎月の分配(年23.8%相当)に届かない。運用がうまくいっても毎月決算型の基準価額は下がり続け、どこかで分配額が見直される可能性が高いと考えられる **推定**。一方、分配をしない年1回決算型なら、この表の成果がそのまま基準価額に反映される。

8.3 これから確認すべき数字

表12 監視指標と確認時期

監視項目	現在の値	注意したい動き	確認時期
分配額	毎月150円	減額の告知。当期の収益以外からの分配の割合の上昇	毎月の決算
基準価額	8,363円	8,000円を割り込む水準が続く	毎月
ドル円・ポンド円	約157円・約208円	150円・190円を割り込むような円高	日銀会合、介入報道
最大銘柄3iの業績	株価は1年で-34%、純資産の0.84倍	アクションの既存店売上の一段の鈍化	11月の3iの半期決算
英国の財政・金利	英10年債5.35%	10月28日の予算発表後のポンド安・金利上昇、11月の英中銀の利上げ	10~11月
運用体制	責任者は2020年から同じ	運用責任者・チームの変更	運用報告書、告知
資金の流れ	116か月連続の純流入	流入の急減や流出への転換	毎月

この章のまとめ

- 金利の高止まりとAI関連株の過熱感は、このファンドには追い風。景気後退・円高・英国の不安は逆風。
- 予想どおりなら株式部分は年+16%程度。それでも毎月の分配(年23.8%相当)には届かない。
- 運用の将来性は十分あるが、毎月決算型の基準価額は下がり続け、分配額の見直しが起こりうる。

判断への意味:運用の将来性を取りにいくなら年1回決算型、受け取りを重視するなら毎月決算型。どちらも同じ運用なので、目的で選ぶ。

総合評価

各章の結論をつなぐと、1つの像が浮かぶ。**替えのきかない世界の優良企業に割安なときに投資する、AIに偏らない「王道」の株式運用。**運用は推せる。毎月決算型は、その成果を毎月まとめて受け取るための器である。

表13 各章のまとめから結論へ

章	分かったこと	判断への意味
1 輪郭	1999年設定、シリーズ4.96兆円でグローバル株アクティブ型第1位。116か月連続の純流入	長く選ばれ続けてきた信頼
2 何に投資	金融・資本財・生活関連に分散し、IT11%。日本ゼロ、英国23%。外貨ほぼ100%	個性のはっきりした分散投資
3 運用の判断	方針と責任者が一貫。上がった銘柄を売り、出遅れた優良株を買う規律	ブームに乗らず、割高を避ける
4 企業と株価	上位10社はほぼ全社増収。予想PER15.7倍、予想増益率約16%、配当1.8%	成長の割に割安
5 押しポイント	優良企業、割安、AIに偏らない分散、急落局面での強さ、一貫性、受け取り、実績	AI中心の資産の分散先として推せる
6 分配金	通算ではプラス。ただし払い出しは基準価額の21.5%、原資の96%は収益調整金	分配の見直しを前提に使う
7 リスク	分野の偏りは小さい。株安と円高の同時発生に弱く、金融危機では-65.6%	2〜3割の下落に耐えられる金額で
8 将来性	環境は追い風寄り。予想どおりなら株式部分は年+16%程度だが、分配には届かない	増やすなら年1回決算型

9.1 最終判断

運用戦略は推せる。世界の優良企業に割安なときに投資し、AIに偏らない分散を保つこの運用は、AI関連株への集中が進んだ今の市場で、資産全体のバランスを整える役割を果たしうる。実際、AI・半導体株が急落した2026年6〜7月もプラスを保った。方針と運用責任者の一貫性、27年の実績も信頼を支える。

ただし、毎月決算型は「受け取り」のための器である。毎月150円の分配は基準価額の21.5%にあたり、予想どおりの運用成果でも届かない。基準価額は下がり続け、分配額が見直される可能性がある。受け取りが必要な人には選択肢になるが、資産を増やす目的なら、同じ運用の年1回決算型(NISA成長投資枠の対象)で持つ方が合理的である。

毎月決算型が向く人

- ・年金の補完など、毎月の受け取りが必要
- ・分配額が見直される可能性を受け入れられる
- ・株安と円高で2〜3割下がることを受け入れられる
- ・AIに偏らない世界の優良企業に分散したい

別のコース・商品を先に考えたい人

- ・資産を増やしたい → 年1回決算型
- ・NISAで持ちたい → 年1回決算型・奇数月決算型
- ・分配金を利回りと考えて生活費をまかなう
- ・為替の変動を避けたい、費用をできるだけ抑えたい

9.2 本書の限界

- ・ 8月末の組入比率は、上位10銘柄(月報)と6月23日の全明細(運用報告書)から推定した。新規組入れのICEの比率(1.5%)は仮定である。
- ・ テーマの分類は本書によるもので、公式の分類ではない。
- ・ 予想PER・予想増益率・配当利回りはYahoo Finance掲載の値(9/25~26取得)で、データの誤りを含みうる(英国株の純資産倍率は単位の不整合のため使っていない)。3ilはPERの集計から除いた。
- ・ リスク寄与は直近2年の週次の値動き、急落の再現は今の組入れによる計算で、将来の値動きを保証しない。
- ・ 売買の検証は、半年ごとの全銘柄明細と株価による概算である。
- ・ 分配の試算とシナリオは、仕組みを確かめるための単純計算であり、予測ではない。
- ・ 本書は投資判断の参考資料であり、個人の資産状況に応じた助言ではない。

付録A 方法とデータ

A.1 組入比率の推定

8月末の上位10銘柄は月報の比率を用いた。その他の銘柄は、6月23日の運用報告書(全体版)の全銘柄明細(49銘柄)の比率を、6/23→8/31の円建て株価の変化で補正し、上位10銘柄以外の株式比率(61.0%)に合わせて再配分した。7～8月に全売却されたデルとICONは除き、新規組入れのICEは1.5%と仮定した。上位10銘柄に入っていない銘柄は2.6%を上限とした。推定値の通貨構成は月報の公表値と±1.7ポイント以内で一致した。

A.2 テーマの分類

決済・取引所・金融データ: ビザ、LSEG、ICE。銀行・保険: AIA、スタンダードチャータード、イースト・ウエスト、アビバ、AIB。投資会社: 3i、KKR。北米の鉄道・物流・建設: カナディアン・パシフィック、ユニオン・パシフィック、QXO、サンベルト、アムライズ、XPO、ウェスト・コネクションズ、マディソン・エア。航空・防衛・旅行: ロールス・ロイス、パイキング、アメンタム。専門・産業サービス: RELX、ローズバンク、エリス、アゼリス、IMCD。テクノロジー: テキサス・インスツルメンツ、マイクロソフト、NVIDIA、ブロードコム、アマゾン。ヘルスケア: メドライン、アルコン、ウォーターズ、エレバンス、BD。生活必需品・消費ブランド: CCEP、ユニバーサル・ミュージック、トラクター・サプライ、プロサス、パフォーマンス・フード、コンパス、ディアジオ、LVMH、SCI。素材・エネルギー・不動産: ノボネシス、アムコア、アーカーBP、アメリカン・タワー。

A.3 予想PER・予想増益率・配当利回り

Yahoo Financeの各銘柄の予想PER(来年度の予想1株利益ベース)、来年度の予想増益率(earningsTrend "+1y")、配当利回りを用いた(9/26取得)。組入れ全体の予想PERは、予想利益利回り(1÷予想PER)の比率加重平均の逆数。3iは投資先の評価益が利益に含まれるため除外した。予想増益率は-50%～+100%で打ち切って比率加重した。

A.4 リスク寄与と急落の再現

各銘柄の株価(現地通貨、配当調整後)に対円為替を掛けて円建ての系列を作り、直近104週の週次騰落率の共分散行列Σと推定比率wから、リスク寄与 $=w_i(\sum w)_i \div (w' \sum w)$ を計算した。上場から日が浅い銘柄や、事業転換前のデータ(ローズバンクは2025年6月以前、QXOは2024年7月以前)は除き、1日で±35%を超える値動きはデータの異常として除外した。急落の再現は、推定比率に各期間の騰落率を当てはめた。実際の成績は投資信託協会の日次基準価額(分配金再投資)から計算した。

A.5 分配の試算

基準価額V、月次リターン $m = (1 + \text{年率})^{(1/12)} - 1$ として、 $V \leftarrow V \times (1 + m) - 150$ を毎月繰り返した。基準価額を保つ年率は、 $(1 + 150 \div 8,372)^{12} - 1 = 23.8\%$ 。通算損益は運用報告書の各月の基準価額(分配落ち後)と分配金から計算した。

A.6 データの保存

計算スクリプトと取得データは、本書と同じフォルダの「計算データとスクリプト」ZIPに収めた。

付録B 出典

資料	URL・確認箇所
交付目論見書(2026/9/17)	インベスコ・アセット・マネジメント(商品の仕組み、費用、分配方針、NISA)
月次運用レポート(2026年6・7・8月末)	https://jppdf.invesco.com/Monthly/312901_20260917.pdf ほか(組入れ、国・通貨・業種、運用コメント)
運用報告書(全体版)10期分(2021年12月～2026年6月)	https://jppdf.invesco.com/ReportALL/312901_20260623.pdf ほか(全銘柄明細、月次の基準価額・分配金、分配原資の内訳、収益分配金の計算過程、売買高比率)
分配金のお知らせ(2026年9月)	https://www.invesco.com/content/dam/invesco/jp/ja/images/retail/2026/global-best/bunpai-letter/maitsuki-202609.pdf
四半期レポート(2026年4～6月)	https://www.invesco.com/content/dam/invesco/jp/ja/individual-investor/pdf/global-best/2026/202608_2026Q2.pdf (予想PER、ROE、予想EPS成長率)
特設ページ・プレスリリース	https://www.invesco.com/jp/ja/individual-investor/funds/featured-funds/global-best.html 、プレスリリース(2026/4/21)、信託金限度額の変更(2026/3/18)
日次の基準価額	投資信託協会 https://toushin-lib.fwg.ne.jp/FdsWeb/FDST030000?isinCd=JP90C0002EX1 (2006/9～2026/9/25)
資金流入の順位	ウエルスアドバイザー(2026/9/7)、Finasee(2026/7/15、9/10)、NTTデータ・エービック(2026/9/10)
運用責任者の経歴	https://www.invesco.com/au/en/about-us/key-people/fund-managers/stephen-anness.html
運用責任者の見解(同戦略の英国の投資信託)	Invesco Global Equity Income Trust plc 年次報告(2026年5月期、2026/9/23公表) https://www.invesco.com/content/dam/invesco/uk/en/product-documents/investment-trust/fund/annual-financial-report/invesco-global-equity-income-trust-plc_annual-financial-report-2026_en-uk.pdf
金融政策・市場環境	FRB(2026/9/16)、英中銀(2026/9/17)、日銀(2026/9/18)の公表。Trading Economics(英国債利回り、9/25)。MSCIの指数ファクトシート(8月末)
株価・為替・予想	Yahoo Finance(日次株価、為替、quoteSummary: 予想PER・予想増益率・配当利回り・時価総額、9/25～26取得)
各社の業績	各社の決算発表・年次報告(3i、CPKC、AIA、ロールス・ロイス、マイクロソフト、ビザ、メドライン、CCEP、テキサス・インスツルメンツ、スタンダードチャータード)
比較に使ったファンド	One／フィデリティ・ブルーチップ・グロース株式ファンド(成長型)の公式日次データと推定組入れ

確認日は2026年9月25～26日。ウェブページは今後更新されうる。

付録C 用語集

用語	意味
基準価額	投資信託1万口あたりの価格
分配金	ファンドの財産から支払われるお金。支払った分、基準価額は下がる
分配対象額(分配可能額)	分配金として支払ってよい会計上の上限額。財産とは別に貯めてあるお金ではない
収益調整金	追加設定のたびに、既存の受益者の分配可能額が薄まらないよう計上される会計上の項目。運用で得た利益ではない
通算損益	今の基準価額＋受け取った分配金－購入時の基準価額
予想PER	株価÷来年度の予想1株利益。利益の何年分の株価がついているか
予想増益率	アナリストが予想する来年度の1株利益の伸び
ROE	自己資本利益率。株主のお金でどれだけ効率よく利益を上げているか
リスク寄与	ファンド全体の値動きのばらつきのうち、各銘柄・テーマが生み出している割合
マザーファンド	実際に株式を保有する親ファンド
年1回決算型	同じ運用で、決算が年1回のコース。設定来分配がなく、NISA成長投資枠の対象